

長野県松本市

IGAWAJŌ-SHI

井川城址

—第3次発掘調査報告書—



2021.3

松本市教育委員会

例 言

- 1 本書は、平成 28 年 5 月 9 日～7 月 8 日に実施された、長野県松本市井川城 1 丁目 4581 番 4 ほか
に所在する井川城址（国史跡「小笠原氏城跡中の井川城跡」を含む）の第 3 次発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、松本市中条保育園（現・井川城保育園）移転改築事業に伴う緊急発掘調査であり、松本市教育委員会が発掘調査、整理・報告書作成を行ったものである。
- 3 本書の執筆分担は、第 I・II 章を伊藤藏之介、第三章第 3 節 1 を廣田早和子、同 2 を大西理美、同 3 を原田健司、同 4 を壬生量子、その他を小山奈津実が行った。
- 4 本書作成にあたっての作業分担は以下のとおりである。
遺物洗浄・注記・接合復元 佐々木正子
遺物実測・拓本・トレース 柏原佳子・直井知導・宮本章江（焼物）、大西理美・佐々木正子（石器）、富岡享子・丸山恵（木製品）
遺構図整理・トレース 荒井留美子
写真撮影 小山奈津実・山口祥子・山本紀之（遺構）、(株)アンドー（空中写真）、宮嶋洋一（遺物）
一覧表作成 荒井留美子・小山奈津実・山本紀之（遺構）、廣田早和子（焼物）、佐々木正子・原田健司（石器）、富岡享子・原田健司（自然遺物）、富岡享子・丸山恵・壬生量子（木製品）
DTP 荒井留美子・伊藤藏之介・大西理美・小山奈津実・富岡享子・直井知導・原田健司・廣田早和子・壬生量子
- 5 本書の中で使用した名称や図の表記は以下のとおりである。
 - (1) 城館跡における址と跡の使い分けは、前者が遺跡・遺構名、後者が史跡名および一般的な呼称を表す。
 - (2) 遺構略称 土坑→土、溝状遺構→溝
 - (3) 図中で使用した方位は真北を示す。また、遺構図中に示した国家座標値（世界測地系・第 8 系）は、東北太平洋沖地震後の補正值である。
 - (4) 焼物実測図断面の塗り分け 白抜きは弥生土器・土師質土器、黒塗りは須恵器・陶磁器
- 6 土層色名は、農林水産省農林水産技術会議事務局 監修・財団法人日本色彩研究所 色票監修『新版標準土色帖』に準拠している。
- 7 報告書作成にあたり、河合君近氏・白沢勝彦氏からご指導、ご助言をいただいた。記して感謝申し上げる。
- 8 本調査の出土遺物および写真・実測図等の記録類は、松本市教育委員会が管理し、松本市立考古博物館（〒390-0823 長野県松本市中山 3738-1 TEL 0263-86-4710 FAX 0263-86-9189）に保管している。

目 次

第 1 章 調査経緯	第 III 章 調査成果
第 1 節 調査経過…………… 3	第 1 節 調査の概要…………… 8
第 2 節 調査体制…………… 3	第 2 節 遺構…………… 9
第 II 章 遺跡の環境	第 3 節 遺物…………… 19
第 1 節 地理的環境…………… 6	第 IV 章 総括…………… 27
第 2 節 歴史的環境…………… 6	写真図版
第 3 節 過去の調査成果…………… 7	報告書抄録

第 I 章 調査経緯

第 1 節 調査経過

松本市により松本市井川城 1 丁目 4581 番 4 ほかで松本市中条保育園（現・井川城保育園）移転改築事業が計画されたが、予定地一帯は周知の埋蔵文化財包蔵地である井川城址に該当していた。文化庁の指導の下、松本市教育委員会（以下「市教委」という。）では、開発担当部局と遺跡保護協議のうえ、平成 26 年 3 月に市教委が策定した『井川城跡の整備・活用方針について』において、井川城跡の主郭を中心に史跡指定を目指すこと、保育園建設予定地は将来的な追加指定を視野に「地下の遺構を壊さないよう、適切な工法を選ぶとともに建物配置に配慮し、遺跡を保護したうえで建設すること」とし、盛土と特殊工法により遺構を全面的に保護する設計とした。しかし、法令上設置が義務付けられている防火水槽は、設計上半地下方式とせざるを得ず、遺構の破壊が避けられないことから、長野県教育委員会（以下「県教委」という。）と協議のうえ、下水ポンプ設置箇所と合わせて記録による遺跡の保存を図ることとした。

平成 28 年 5 月 12 日付で、文化財保護法第 94 条に基づく土木工事等のための埋蔵文化財発掘の通知書が松本市から県教委宛に提出された。市教委では、同日付で副申を付して通知書を県教委に進達し、5 月 30 日付で県教委から埋蔵文化財の記録保存のための発掘調査実施の通知を受けた。

発掘調査は市教委が平成 28 年 5 月 9 日～7 月 8 日に実施した。調査終了後、平成 28 年 7 月 19 日付で県教委に発掘調査終了報告書を提出した。また、7 月 11 日付で埋蔵物発見届を松本警察署に提出し、7 月 22 日付で県教委より埋蔵物の文化財認定及び出土品の帰属についての通知を受けた。それを受け 10 月 25 日付で出土文化財譲与申請書を県教委に提出し、11 月 1 日付で出土文化財の譲与についての通知を受けた。

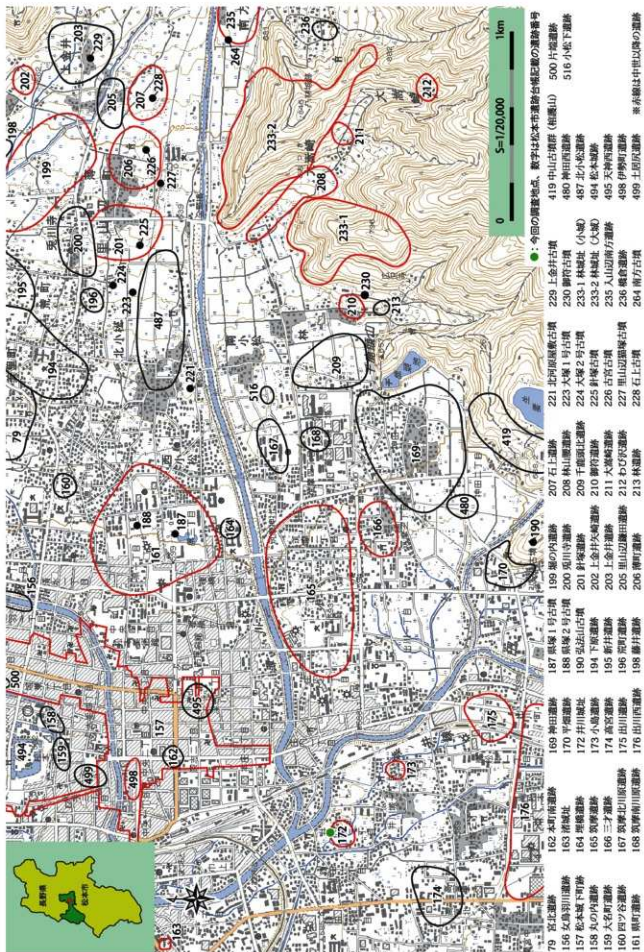
第 2 節 調査体制

【平成 28 年度 発掘調査】

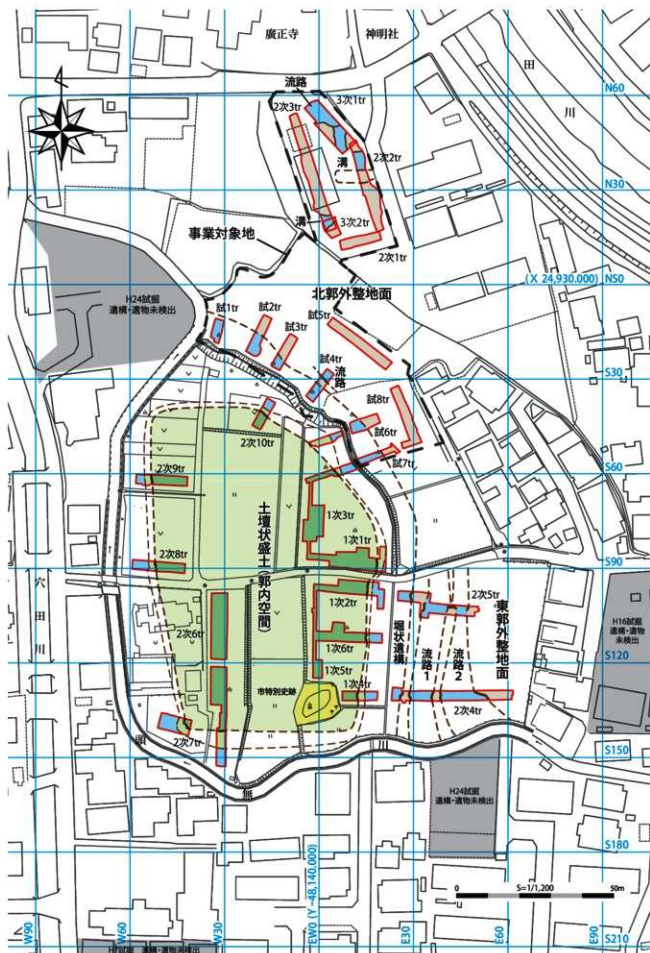
調査団長 赤羽郁夫（松本市教育長）
調査担当 小山奈津実（主事）、山本紀之（嘱託）、山口祥子（同）
調査員 保柳康一（信州大学 理学部 教授）
発掘協力者 猿楽あい子、清水陽子、関口滋、茅野信彦、鳥井和幸、長岩千晴、中村明、林秋好、宮澤昭敬
事務局 松本市教育委員会文化財課
木下守（課長）、直井雅尚（埋蔵文化財担当係長）、櫻井了（主査）、吉見寿美恵（嘱託）

【令和元・2 年度 整理作業・報告書刊行】

報告書担当 小山奈津実（主事）、山本紀之（嘱託：R1）、廣田早和子（会計年度任用職員 1 類：R2）、伊藤蔵之介（同：R2）
調査員 宮嶋洋一
整理協力者 荒井留美子、柏原佳子、佐々木正子、竹内直美、富岡享子、直井知導、直井由加里、丸山恵、宮本章江
事務局 松本市教育委員会文化財課
大竹永明（課長：R1）、竹原学（同：R2）、竹内靖長（埋蔵文化財担当係長：R1）、三村竜一（同：R2）、百瀬耕司（主査）、吉見寿美恵（嘱託・会計年度任用職員 1 類）



第1図 調査地の位置と周辺遺跡 (S=1/20,000)



第2図 事業対象地と調査区の範囲 (S=1/1,200)

第Ⅱ章 遺跡の環境

第1節 地理的環境

松本盆地は、3,000m級の高山が連なる西の飛騨山脈と、美ヶ原高原や高ボッチ高原を有し、1,000～2,000m級の山々が連なる東の筑摩山地によって挟まれた、南北に長い盆地である。中でも松本の中心市街地は、東側の筑摩山地から流れてきた薄川と女鳥羽川によって形成された複合扇状地の末端に位置している。この中心市街地南部には薄川と田川の合流地点があり、井川城址が所在するのはその南側である。標高は585mで、字「井川」の地名は南北130m・東西90mの楕円形地割を指す。これまでの発掘調査により、井川城址直下には周囲との比高が1.0～1.5m高い微高地が広がっていたことが判明している。この微高地を形成する地山は、田川・牛伏川系統の堆積物をベースとする粘土層であるという点で周辺の地山と共通する一方、乾燥が進み、陸地性の植物炭化物を表層に含む点で異なっている。宅地化が進行する以前には館推定地の南部、字古城一帯に沼地が広がっていたことから、かつて周辺一帯は河川による網状流路の中にあっただことが分かる。微高地は井川城址直下だけでなく、周辺にも点在していたと考えられ、この地域の旧村名である小島村という名や館の名称である「井川」は、そうしたかつての様子を端的に示している。

第2節 歴史的環境

まず、発掘調査で明らかとなった井川城址周辺の中世遺跡についてみていく。頭無川上流、井川城址の南東に位置する出川遺跡からは、平成元年の第2次調査で墓域を伴う15～16世紀の集落跡が検出されている。この遺跡も井川城址同様、低湿地に位置している。またそのすぐ南、出川西遺跡における平成26年の第11次調査では、窪地の整地を伴う中世の区画溝と威信材である龍泉窯青磁花器が出土しており、井川城址との関連が注目される。

続いて周辺の城館についてみていく。市域に存在する、井川城址以外の平地の中世城館跡としては、殿城(和田)・清水城(荒井城とも。島立)・小屋城(芳川)・渚城(渚)・深志城(丸の内)などがある。享保9年(1724)に編纂された『信府統記』に記載のある小屋城は、『高白斎記』においては「村井の城」として記され、武田氏による小笠原氏攻略の前線基地であったことが窺える。渚城は近世に成立した小笠原氏の系図『笠系大成』にその名がみえ、小笠原長秀が死去した場所とされる。その跡地に建つ常徳寺周辺には、現在も方形の地割が残る。深志城は当初、府中小笠原氏に代わって井川城に入城した島立右近貞永が井川城に与えた新たな名であったが、その後貞永は永正元年(1504)、現在松本城が建つ場所へ深志城を移転したとされる(『信府統記』)。『高白斎記』によれば、深志城は武田氏の府中侵攻によって天文19年(1550)に自落し、以後武田氏の府中支配の拠点となった。その後、深志城は天正10年(1582)に、武田氏滅亡を機に本領を回復した小笠原貞慶によって松本城へと改められた。松本城の前身である深志城に関する情報は従来限られていたが、平成13年の松本城三の丸跡土居尻第2次調査、平成17年の松本城三の丸跡大名町第1次調査では、松本城築城より古い16世紀の土層から薬研堀が確認された。また、平成26年の松本城三の丸跡土居尻第5次調査では、松本城期の三の丸遺構とは軸線を異にする中世遺構が確認されている。これ以後の調査でも深志城期のもと考えられる中世遺構が確認されており、考古学的な観点から徐々に深志城の姿が明らかになりつつある。

第3節 過去の調査成果

井川城址における最初の考古学的調査は平成25年に行われた試掘調査で、松本市中条保育園の移転改築計画を契機としてのものであった。引き続き、遺跡の範囲・内容確認のため、平成25年に第1次、翌年には第2次の調査が実施されている。ここでは、試掘・第1次・第2次調査における調査成果の概要を示す。

1 中世以前

本調査地で主体となるのはあくまで中世の遺構・遺物であるが、中世以前の遺構・遺物も確認している。中でも平安時代全般にわたる遺物の出土は、本調査地が中世の造成以前から、生活域として継続的に利用されていたことを示す。本調査地の南に位置する出川西・出川南遺跡では多数の住居址が検出され、弥生時代後期から平安時代にかけて継続的に集落が営まれていたことが明らかとなっている。両遺跡と本調査地が、共通の生活域の一部であった可能性は高い。

2 中世

井川城址におけるこれまでの調査では、居館跡と推定される長方形土壇状盛土遺構と、その外周を巡る土塁及び堀状遺構を検出したほか、門跡の可能性を持つものも含め4軒の礎石建物を土壇状盛土遺構内で検出した。土塁には虎口と推定される一部途切れた箇所が東側に確認されたほか、堀状遺構の覆土から大量のサイカチ花粉が検出された。堀状遺構の水際付近からサイカチの立木株が出土したこともあり、鋭いとげによる防御効果を企図してサイカチを植えていた可能性が高い。

出土した遺物の中核をなすのは焼物である。14世紀後半から16世紀初頭までの時間幅を有し、出土点数が最も多いのは15世紀前半（古瀬戸後Ⅲ期）のものである。特筆すべきものとしては、威信材である青磁荷形瓶、天目茶碗・茶入・茶壺といった茶道具、碁石や香炉といった娯楽道具が出土している。焼物から求められる年代幅は、井川城を本拠とし15世紀前半に守護としての隆盛期を迎えるも、家内での対立激化により15世紀半ばに林城を築城、15世紀終わりに林城へと本拠地を移したという、文献・伝承からみた府中小笠原氏の動向と整合する。

これらの成果により、本調査地が武家の方形居館跡であることが考古学的調査によってはじめて裏付けられた。一方で、この居館跡が諸文献にみられる「井川館」「井川の城」に比定しうるのかという問題については、中世の井川城について記した同時代の一次史料が極めて少なく、発掘調査成果との比較が不可能であるという課題が残る。ただ、出土した焼物から導き出される居館の存続年代と文献・伝承にある府中小笠原氏の動向が整合することに加え、近世に成立した二次史料『信府統記』における「井川の城」の描写と、発掘調査によって明らかとなった土壇状盛土遺構や虎口の存在が一致することを踏まえ、この居館跡が井川城址である蓋然性は極めて高いと結論付けられる。

なお土壇状盛土遺構の外、すなわち郭外の空間からも遺構・遺物が確認されている。土壇状盛土遺構の北東に位置する北郭外空間では南北4間×東西2間以上の礎石建物が検出されたほか、土壇状盛土遺構内と遜色ない量の焼物が出土した。また青磁盤や古瀬戸花瓶、朝鮮通宝や硯といった特徴的な遺物も出土しており、家臣屋敷や寺院といった、居館周辺の関連施設が存在したと推定される。

参考文献

- 後藤芳孝 1996「小笠原氏のもので」『松本市史』第2巻 歴史編1
- 笹本正治 1996「戦国騒乱のなかで」『松本市史』第2巻 歴史編1
- 松本市教育委員会 2016『長野県松本市小笠原氏城館群—井川城址試掘・第1次・第2次発掘調査報告書—』

第三章 調査成果

第1節 調査の概要

1 調査区の設定

今回の開発予定地は約3,800㎡であるが、開発担当部局との遺跡保護協議のうえ、破壊が避けられない範囲を調査対象範囲に設定した。調査区は1・2トレンチを設定し、犬走りを含む平面積198㎡の調査を実施した。

2 調査の方法・手順

調査区はパワーショベルを用いて遺構検出が可能な深度まで表土を除去し、最上面で検出された生活面を第1検出面とした。遺構検出作業からは人力で行い、検出完了後は各遺構の掘り下げを行った。全ての遺構の掘り下げと記録が終了した後は、人力で次の検出面まで掘り下げ、同様の手順を地山面まで繰り返した。なお、1トレンチは第1検出面の調査時に、北側で底が地山面よりも深くなる自然流路を検出したこと、東壁の一部が降雨により崩落したことから、安全面などを考慮して、第2検出面からは調査範囲を狭めた。遺構番号は遺構の種別毎とし、今回の調査で1号から通し番号を付けた。遺構測量に係る基準は国家座標（世界測地系）を用いた。基準点は、調査地周辺にある2級基準点、3級基準点を基に調査地内に複数設置した。測量基準点はX = 24,930,000、Y = -48,140,000をNSO、EWOとした。測量は簡易遣り方測量により作成した。平面図・各遺構図・断面図は1/20で作成した。写真は発掘作業の各段階と遺構等の遺物出土状況及び完掘状況をフィルムカメラとデジタルカメラで撮影した。また、調査区全景はドローンによる空中写真測量を実施し、オルソ画像データを作成した。

3 調査成果の概要

調査面積：のべ366㎡（平面積：198㎡）

発見遺構

土坑：11基

溝状遺構：4条

自然流路：1条

出土遺物

焼物：弥生土器、在地系須恵器、土師器、土師質土器、無釉陶器、灰釉陶器、古瀬戸、陶器、青磁、白磁

石器・石製品：火打石

自然遺物：鹿角、蛤、オニクルミ

木製品：齋串状木製品、齋串、杭、漆製品、付木、笹塔婆、円板、下駄、指物、建築部材

第2節 遺構

今回の調査では16の遺構を検出し、遺構番号を付した。遺構の種別について、単独の穴は規模の大小に関わらず土坑とした。これらの平面形・規模・他遺構との新旧関係等については、第1表を参照されたい。また、溝状の遺構は、調査時に自然流路と判断した1条以外を溝状遺構とした。本項では各調査区・検出面ごとに概要を記述する。

1 1トレンチ(第1・2表、第3・4図、写真図版1~3)

第2次調査2トレンチの北側に位置し、調査区の南側は2トレンチに若干重なる。遺構検出面は地山面を含めて3面を確認した。第1・2検出面はそれぞれ、第1・2次調査の第1・2検出面に対応すると推定される。第1・2次調査で第3検出面とした面は、今回の調査で確認することができなかった。

(1) 第1検出面

土坑 土坑は調査区の中央西側で3基が検出された。平面形態は、土1が円形、土2・3が楕円形である。柱痕は土3で観察できたが、調査区内では建物址などを構成せず、性格は不明である。また、遺物は土2で古瀬戸の折縁深皿が出土している。

溝1 [規模] 長さ<798>×幅364×深さ116cm [切り合い] 自然流路に切られる

調査区の南側に位置する。南北方向に伸び、水流は南→北方向と推定される。断面形は逆台形である。トレンチ1の覆土の堆積状況から、埋没過程は大きく6段階あると推定される。第1段階は腐食植物(25・26層)、第2段階は黒褐色のシルト質土(23・24層)、第3段階は灰～黒褐色の粘質シルト質土(20～22層)により埋没している。第4段階の黒褐色のシルト質土(16～19層)の埋没からは、穏やかな流れ(19層)があったことが推定される。第5段階は、腐食植物と細粒砂の互層(6～15層)で、穏やかな流れと流れの淀んだ状態があったことが推定される。第6段階は細粒砂(1～5層)の堆積で、自然埋没と推定される。遺物は土師質土器の皿・大皿・内耳鍋、無軸陶器の片口鉢、古瀬戸の緑釉小皿、鹿角、齋串状木製品、齋串、漆椀、笹塔婆、下駄、サイカチなどが出土している。漆椀は溝の南側の底ほぼ直上から伏せられた状態で出土し、椀の中の土を除去している際に笹塔婆が確認された。また、漆椀の横からは先端部が意図的に切断された可能性のある鹿角が1点、周辺からは齋串状木製品及び齋串が多数出土している。これらの出土状況から、この場所では何らかの祭祀が行われた可能性が示唆される。第1・2次調査のトレンチとの位置関係をみると、第2次調査2トレンチで検出した流路とは直交する関係にある。しかし、2条が交差する箇所を掘削していないため、屈曲した1条の溝状遺構になるのか、別々の溝状遺構が直交したものになるのかは不明である。ただし、第2次調査1トレンチで溝1の延長を確認していないこと、第2次調査3トレンチで流路の延長を確認していないことから、これらは屈曲した1条の溝状遺構になる可能性が高いと推定される。

自然流路 調査区の北側に位置する。東西方向に伸び、溝1と直交し、溝1を切る。トレンチ2の覆土の堆積の状況から、埋没過程は大きく3段階あると推定される。まず、洪水と推定される砂礫(21・22層)による埋没がみられる。次の黒色系の中粒砂～シルト質土(10～20層)の埋没からは穏やかな流れが推定される。最後は30mmの礫が混入する層を含む砂礫(1～9層)により流路全体が埋没する。遺物は土師質土器の内耳鍋、灰釉陶器の広口瓶が出土している。

(2) 第2検出面

溝3 [規模] 長さ<620>×幅248×深さ47cm

調査区の北側に位置する。南北方向に延び、断面形は皿状である。第2検出面は予定よりも深く掘削をしてしまったため、平面では溝の底が確認されたのみである。西壁及びトレンチ1～3で断面の確認ができたことから、平面図には推定ラインを記載している。覆土は黒褐色のシルト質土で、炭化物の混入がみられる。遺物は土師質土器の内耳鍋、オニクルミ、齋串状木製品が出土している。

(3) 地山面

溝4 [規模] 長さ<163>×幅<33>cm

調査区の東側に位置し、南北方向に延びる。溝の西端の一部が確認できたのみであるため、幅や深さなどの規模や断面形は不明である。遺物は出土していない。

2 2トレンチ (第1・2表、第5・6図、写真図版3)

第2次調査3トレンチの南側に位置し、調査区の北半は3トレンチに重なる。そのため、第1・2検出面では、3トレンチで排水トレンチとした部分を攪乱として検出している。遺構検出面は地山面を含めて4面を確認した。第1～3検出面はそれぞれ、第1・2次調査の第1～3検出面に対応すると推定される。地山面では遺構が検出されなかったため、ここでは第1～3検出面について記述する。

(1) 第1検出面

溝2 [規模] 長さ<252>×幅<164>cm

調査区の北側に位置し、東西方向に延びる。溝の南端の一部が確認できたのみであるため、幅や深さなどの規模や断面形は不明である。覆土は灰～オリーブ黒色の砂質シルト～粘質シルトである。トレンチの1層は土塊が多量に混ざることから、人為的な堆積の可能性が考えられる。遺物は漆皿が出土している。位置関係から、第2次調査3トレンチの流路4と同一の溝状遺構であると推定される。

(2) 第2検出面

土4 調査区の北側に位置する。平面形態は円形で、遺物は出土していない。

(3) 第3検出面

土坑 土坑は調査区の北側で7基が検出された。平面形態は円形が4基、楕円形が2基、不明が1基である。遺物はいずれの土坑からも出土していない。

第1表 土坑一覧表

No	地区	面	平面形	規模 (cm)			新旧関係		出土遺物	備考
				長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新		
1	1tr	1	円形	32	30	9				
2	1tr	1	楕円形	54	36	8			古瀬戸新緑深部	
3	1tr	1	楕円形	47	37	8				柱痕
4	2tr	2	円形	28	26	16				
5	2tr	3	円形?	68	<44>	13				
6	2tr	3	円形	14	<7>	4				
7	2tr	3	円形?	14	<6>	20				
8	2tr	3	円形?	21	<15>	4				
9	2tr	3	楕円形	<26>	18	9				
10	2tr	3	楕円形?	67	<20>	9				
11	2tr	3		90		48				壁面観察

計測数値

<>:残存値

第2表 土層注記表

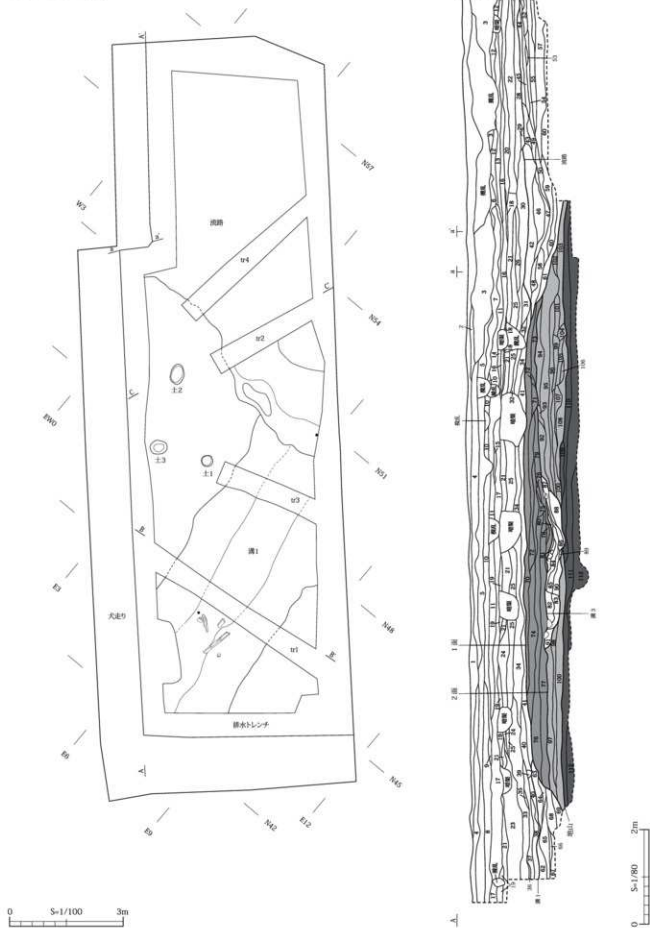
No.	土色	土質	しまり	粘性	含有物	面	性状	備考
1トレンチ 西段土層								
1							近世以降	砂石
2							近世以降	近・現代造成土
3							近世以降	近・現代造成土
4							近世以降	近・現代造成土
5							近世以降	近・現代造成土
6	10YR3/2	黒褐色	シルト	あり	ややあり	暗オリーブ色土塊 10%	近世以降	
7	10YR3/2	黒褐色	シルト	あり	ややあり	暗オリーブ色土塊 20～30%	近世以降	
8		黒褐色	シルト				近世以降	
9		黒褐色	シルト				近世以降	
10	5Y6/1	灰	シルト	強	ややあり		近世以降	
11	5Y4/3	暗オリーブ	シルト	あり	弱		近世以降	鉄分による変色あり
12	2.5Y4/3	暗オリーブ	シルト	あり	弱	細砂粒 10～20%	近世以降	
13	2.5Y3/3	黄褐色	シルト	あり	弱	細砂粒 多量	近世以降	
14	5Y4/3	暗オリーブ	シルト	あり	弱	細砂粒 多量	近世以降	
15		暗灰青	細粒砂	強	弱	細砂粒 混入	近世以降	
16		オリーブ	細粒砂	弱	弱	細砂粒 混入	近世以降	鉄分による変色あり
17	2.5Y4/2	暗灰青	シルト	あり	弱		近世以降	鉄分による変色あり
18	2.5Y4/1	黄褐色	シルト	あり	ややあり		近世以降	
19	2.5Y3/3	暗オリーブ	シルト	あり	ややあり	細砂粒 微量	近世以降	
20	2.5Y4/2	暗灰青	シルト	あり	ややあり	細砂粒 多量、腐食植物・鉄分 混入	近世以降	
21	2.5Y3/3	暗オリーブ	シルト	あり	ややあり	腐食植物・鉄分 混入	近世以降	
22	2.5Y4/3	オリーブ	シルト	あり	ややあり	鉄分・腐食植物 多量	近世以降	
23	5Y3/1	オリーブ	シルト	あり	あり		近世以降	
24	2.5Y3/3	暗オリーブ	シルト	あり	ややあり	φ 5～10mm 10%	近世以降	
25	2.5Y3/3	暗オリーブ	砂質シルト	あり	弱	腐食植物・鉄分 混入	近世以降	
26	2.5Y4/1	黄褐色	シルト	あり	ややあり	細砂粒 混入	近世以降	
27	2.5Y4/2	暗灰青	シルト	あり	ややあり	鉄分・腐食植物 少量	近世以降	
28	2.5Y4/2	暗灰青	シルト	あり	あり	鉄分・腐食植物 多量	近世以降	
29	2.5Y5/2	暗灰青	シルト	あり	ややあり	鉄分・腐食植物 多量	近世以降	
30	2.5Y3/3	暗オリーブ	シルト	あり	あり	黄褐色土塊 20%、細砂粒 微量	近世以降	
31	2.5Y3/3	暗オリーブ	シルト	あり	ややあり	細砂粒 10%、φ 10～20mm 5%	近世以降	
32	2.5Y4/2	暗灰青	砂質シルト	あり	弱	黒褐色土塊 多量	近世以降	
33	2.5Y5/2	暗灰青	シルト	あり	あり		近世以降	
34	2.5Y4/2	暗灰青	砂質シルト	あり	弱	黒褐色土塊 20%	近世以降	
35	2.5Y4/1	黄褐色	シルト	あり	あり		近世以降	
36	2.5Y4/1	黄褐色	シルト	あり	あり		近世以降	
37	2.5Y5/1	黄褐色	シルト	あり	あり		近世以降	
38	7.5Y4/1	灰	砂質シルト	あり	あり		近世以降	
39		灰	砂質シルト	あり	あり		近世以降	
40	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	あり	あり		近世以降	
41	2.5Y3/2	黄褐色	砂質シルト	あり	弱	暗灰黄色土塊 微量	近世以降	
42		黄褐色	細粒砂	弱	弱	暗オリーブ褐色土粒 混入	1面	道路 覆土
43	2.5Y4/2	暗灰青	シルト	あり	あり	細砂粒 多量、鉄分・腐食植物 微量	1面	道路 覆土
44	2.5Y4/3	オリーブ	細粒砂	弱	弱		1面	道路 覆土
45	2.5Y4/2	暗灰青	シルト	あり	ややあり	φ 2～3mm 10%、鉄分・腐食植物 微量	1面	道路 覆土
46	2.5Y3/1	黒褐色	シルト	あり	あり		1面	道路 覆土
47		オリーブ	極細粒砂	弱	弱	φ 2～3mm 混入	1面	道路 覆土
48	2.5Y3/3	暗オリーブ	シルト	あり	ややあり	細砂粒 混入	1面	道路 覆土
49	2.5Y4/3	オリーブ	細粒砂	弱	弱	鉄分 混入	1面	道路 覆土
50	2.5Y4/1	黄褐色	細粒砂	あり	ややあり		1面	道路 覆土
51	2.5Y4/2	暗灰青	シルト	あり	ややあり	φ 5～10mm 10%	1面	道路 覆土
52		オリーブ	細粒砂	弱	弱		1面	道路 覆土
53		暗灰青	中粒砂	弱	弱		1面	道路 覆土
54		オリーブ	粗粒砂	弱	弱		1面	道路 覆土
55		暗灰青	極細粒砂	弱	弱		1面	道路 覆土
56		暗灰青	粗粒砂	弱	弱		1面	道路 覆土
57		暗灰青	極細粒砂	弱	弱		1面	道路 覆土
58		オリーブ	細粒砂	弱	弱		1面	道路 覆土
59	2.5Y4/1	黄褐色	シルト	あり	あり		1面	道路 覆土
60		黄褐色	極細粒砂	弱	弱		1面	道路 覆土
61	7.5Y4/1	灰	細粒砂	弱	弱		1面	道路 覆土
62	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	あり	あり		1面	溝 1覆土
63	7.5Y4/1	灰	砂質	弱	弱		1面	溝 1覆土
64	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	あり	強		1面	溝 1覆土
65	7.5Y5/1	灰	砂質	弱	弱		1面	溝 1覆土
66	5Y3/2	オリーブ	粘質シルト	あり	あり		1面	溝 1覆土
67	2.5Y3/1	黒褐色	粘質シルト	あり	あり		1面	溝 1覆土
68	5Y2/2	オリーブ	粘質シルト	あり	あり		1面	溝 1覆土
69	5Y4/2	灰オリーブ	粘質シルト	あり	あり		1面	溝 1覆土
70	5Y2/2	オリーブ	シルト	あり	ややあり	暗オリーブ色土塊 20%	1面	1面 埋土
71	10YR3/1	黒褐色	シルト	あり	あり	黄褐色土塊 20%、腐食植物 混入	1面	1面 埋土
72	5Y3/1	オリーブ	シルト	あり	あり	灰色土塊 20%	1面	1面 埋土
73	5Y3/1	オリーブ	シルト	あり	ややあり	紫色土塊 20%	1面	1面 埋土
74	5Y3/1	オリーブ	シルト	あり	あり	灰色土塊 10%	1面	1面 埋土
75	2.5Y3/1	黒褐色	シルト	あり	ややあり	オリーブ褐色土塊 多量、細砂粒・炭化物 微量	1面	1面 埋土
76	2.5Y3/1	黒褐色	シルト	あり	あり	オリーブ褐色土塊 10%	1面	1面 埋土
77	5Y3/1	オリーブ	シルト	あり	ややあり	腐食植物 20%	1面	1面 埋土
78	5Y3/2	オリーブ	粘質シルト	あり	あり		1面	1面 埋土

№	土色	土質	しまり	粘性	含有物	面	性格	備考
79	2.5Y/2	暗灰黄	シルト	あり	あり	1面	1面整地土	1tr-r2-23に対応
80	5Y/1	灰	シルト	あり	ややあり	2面	溝3層土	
81	10YR2/2	黒	シルト	あり	ややあり	2面	溝3層土	
82	10YR2/1	黒	シルト	あり	ややあり	2面	溝3層土	
83	5Y/1	黒	シルト	あり	あり	2面	溝3層土	
84	5Y2/2	オリブ黒	シルト	あり	あり	2面	溝3層土	
85	2.5Y/3	黒	シルト	あり	ややあり	2面	溝3層土	
86	5Y/1	黒	シルト	弱	弱	2面	溝3層土	炭化物層
87	2.5Y/3	黒	シルト	あり	あり	2面	溝3層土	
88	5Y2/2	オリブ黒	シルト	あり	ややあり	2面	溝3層土	
89	10YR2/2	黒	シルト	あり	ややあり	2面	溝3層土	
90	2.5Y/2	黒	粘質シルト	あり	あり	2面	溝3層土	
91	7.5Y2/2	オリブ黒	シルト	あり	あり	2面	溝3層土	
92	5Y/3	オリブ黒	シルト	あり	あり	2面	溝3層土	1tr-r1-35に対応
93	2.5Y/3	黒	シルト	あり	ややあり	2面	2面整地土	1tr-r2-38に対応
94	5Y/3	オリブ黒	シルト	あり	ややあり	2面	2面整地土	
95	2.5Y/3	黒	シルト	あり	ややあり	2面	2面整地土	1tr-r2-39に対応
96	2.5Y/3	黒	シルト	あり	ややあり	2面	2面整地土	1tr-r2-40に対応
97	5Y/3	オリブ黒	シルト	あり	あり	2面	2面整地土	
98	5Y/3	オリブ黒	シルト	あり	あり	2面	2面整地土	1tr-r1-36に対応
99	5Y/3	オリブ黒	シルト	あり	あり	2面	2面整地土	
100	2.5Y/3	黒	シルト	あり	ややあり	2面	2面整地土	1tr-r1-38, 1tr-r2-41に対応
101	5Y/3	オリブ黒	シルト	あり	あり	2面	2面整地土	
102	5Y/3	オリブ黒	砂質シルト	あり	ややあり	2面	2面整地土	
103	7.5Y2/1	黒	シルト	あり	あり	2面	2面整地土	
104	5Y/3	オリブ黒	シルト	あり	あり	2面	2面整地土	
105	7.5Y 3/1	オリブ黒	シルト	あり	あり	2面	2面整地土	
106	5Y/3	オリブ黒	シルト	あり	あり	2面	2面整地土	
107	2.5Y/3	黒	シルト	あり	あり	2面	2面整地土	
108	2.5Y/3	黒	シルト	あり	ややあり	2面	2面整地土	1tr-r2-42に対応
109	2.5Y/3	黒	シルト	あり	あり	2面	2面整地土	1tr-r2-44に対応
110	5Y/3	オリブ黒	粘質シルト	あり	強	2面	2面整地土	1tr-r2-45に対応
111	2.5Y/1	黄灰	粘質シルト	強	強	地山	中世以前の埋積土	1tr-r1-40, 1tr-r2-46に対応
112	5Y/2	黒	粘質シルト	強	強	地山	中世以前の埋積土	
1トレンチ トレンチ1土層								
1		暗灰	細砂	弱	弱	1面	溝1層土	
2		暗灰	細砂	弱	弱	1面	溝1層土	
3		灰白	細砂	弱	弱	1面	溝1層土	
4	10Y4/1	灰	シルト	あり	弱	1面	溝1層土	
5	7.5Y/1	灰	細砂	弱	弱	1面	溝1層土	
6	5Y/3	オリブ黒	シルト	あり	あり	1面	溝1層土	鉄分による変色あり
7	5Y/3	オリブ黒	シルト	弱	弱	1面	溝1層土	一部に炭化物が堆積
8		灰白	細砂	弱	弱	1面	溝1層土	
9		オリブ黒	シルト	弱	弱	1面	溝1層土	炭化物層
10	10YR2/3	黒	シルト	あり	ややあり	1面	溝1層土	
11		オリブ黒	シルト	弱	弱	1面	溝1層土	炭化物層
12		にぶい黄	細砂	弱	弱	1面	溝1層土	
13		灰白	細砂	弱	弱	1面	溝1層土	
14		オリブ黒	シルト	弱	弱	1面	溝1層土	炭化物層
15		灰白	細砂	弱	弱	1面	溝1層土	
16	2.5Y3/2	黒	シルト	あり	あり	1面	溝1層土	
17	2.5Y/3	黒	シルト	あり	あり	1面	溝1層土	
18	2.5Y/3	黒	シルト	あり	あり	1面	溝1層土	
19	5Y/1	灰	砂質シルト	あり	弱	1面	溝1層土	
20	2.5Y/3	黒	粘質シルト	あり	あり	1面	溝1層土	
21	7.5Y/1	灰	粘質シルト	あり	あり	1面	溝1層土	
22	5Y/1	灰	粘質シルト	あり	強	1面	溝1層土	
23	2.5Y/3	黒	シルト	あり	ややあり	1面	溝1層土	
24	2.5Y/3	黒	粘質シルト	あり	強	1面	溝1層土	
25	5Y2/1	黒	シルト	弱	弱	1面	溝1層土	炭化物・炭化物層
26	5Y/1	灰	粘質シルト	あり	強	1面	溝1層土	
27	5Y/3	オリブ黒	シルト	あり	ややあり	1面	1面整地土	
28	2.5Y/3	暗オリブ黒	シルト	あり	ややあり	1面	1面整地土	
29	2.5Y/1	黄灰	シルト	あり	ややあり	1面	1面整地土	
30	5Y/1	灰	シルト	あり	あり	1面	1面整地土	粗粒質
31	5Y/3	オリブ黒	シルト	あり	あり	1面	1面整地土	
32	2.5Y/1	黄灰	シルト	あり	ややあり	1面	1面整地土	1tr-西岸-76に対応
33	5Y/3	オリブ黒	シルト	あり	ややあり	1面	1面整地土	
34	5Y/3	オリブ黒	シルト	あり	ややあり	1面	1面整地土	1tr-西岸-77に対応
35	5Y/3	オリブ黒	シルト	あり	ややあり	2面	溝3層土	1tr-西岸-91に対応
36	5Y2/1	黒	シルト	あり	あり	2面	2面整地土	1tr-西岸-98に対応
37	5Y2/1	黒	シルト	弱	弱	2面	2面整地土	
38	2.5Y/1	黄灰	シルト	あり	ややあり	2面	2面整地土	1tr-西岸-100に対応
39	5Y/3	オリブ黒	シルト	あり	ややあり	2面	2面整地土	
40	10YR1/7	黒	粘質シルト	あり	強	地山	中世以前の埋積土	1tr-西岸-111に対応
41	5Y/1	灰	シルト	あり	強	地山	中世以前の埋積土	

№	土色	土質	しまり	粘性	含有物	面	性状	備考
42	5Y4/1	灰	粘質シルト	あり	腐食植物 多量	地山	中層以前の堆積土	
1 トレンチ 2 トレンチ 2 土層								
1	5Y5/1	灰	砂質シルト	あり	弱	オリブ黒色土塊 多量	1面	道路 覆土
2	5Y 3/2	オリブ黒	シルト	あり	あり	灰色土塊 20%	1面	道路 覆土
3		灰白	細粒砂	なし	弱		1面	道路 覆土
4		灰黄緑	細粒砂	あり	弱	鉄分 混入	1面	道路 覆土
5		灰白	中粒砂	弱	弱	φ 30mm 混入	1面	道路 覆土
6		灰黄	中粒砂	弱	弱	φ 5 ~ 10mm 混入	1面	道路 覆土
7		灰白	細粒砂	あり	弱		1面	道路 覆土
8		にぶい黄緑	細粒砂	あり	弱	オリブ黒色土粒が横方向結状に堆積	1面	道路 覆土
9		にぶい黄緑	中粒砂	弱	弱	φ 2 ~ 30mm 混入	1面	道路 覆土
10	5Y4/2	灰オリブ黒	砂質シルト	あり	弱	オリブ黒色土塊 20%	1面	道路 覆土
11	5Y3/2	オリブ黒	シルト	あり	あり		1面	道路 覆土
12	5Y3/2	オリブ黒	シルト	あり	あり	細粒 混入	1面	道路 覆土
13		灰オリブ黒	細粒砂	弱	弱	細粒が横方向結状に堆積	1面	道路 覆土
14		灰	中粒砂	弱	弱	φ 3 ~ 5mm 混入	1面	道路 覆土
15	5Y5/1	灰	細粒砂	弱	弱		1面	道路 覆土
16	5Y3/2	オリブ黒	砂質シルト	あり	弱	灰色土粒が横方向結状に堆積	1面	道路 覆土
17	5Y3/1	オリブ黒	粘質シルト	あり	あり		1面	道路 覆土
18	5Y3/1	オリブ黒	砂質シルト	あり	あり		1面	道路 覆土
19	5Y4/1	灰	シルト	あり	あり		1面	道路 覆土
20	5Y4/1	灰	細粒砂	弱	弱		1面	道路 覆土
21		にぶい黄緑	中粒砂	弱	弱	φ 2 ~ 3mm 混入	1面	道路 覆土
22		にぶい黄緑	中粒砂	弱	弱	φ 5 ~ 10mm 混入	1面	道路 覆土
23	2.5Y4/2	暗灰黄	シルト	あり	ややあり	黄褐色土塊・黄褐色土塊・細粒砂 微量	1面	1面整地土
24	2.5Y4/2	暗灰黄	シルト	あり	ややあり	鉄分 30%、炭化物 微量	1面	1面整地土
25	5Y3/2	オリブ黒	シルト	あり	あり	オリブ色土塊 20%	1面	1面整地土
26	5Y3/1	オリブ黒	粘質シルト	あり	あり		1面	1面整地土
27	2.5Y4/1	黄灰	シルト	あり	あり		1面	1面整地土
28	2.5Y4/1	黄灰	シルト	あり	あり	黄褐色土粒が横方向結状に堆積	1面	1面整地土
29	10YR3/1	黒褐色	シルト	あり	ややあり	腐食植物 多量、オリブ黒色土塊 10%、炭化物 微量	2面	溝 3 覆土
30	5Y2/1	黒	シルト	あり	ややあり	灰色土塊 10%、炭化物 5%	2面	溝 3 覆土
31	5Y2/1	黒	シルト	あり	ややあり	炭化物・鉄分 微量	2面	溝 3 覆土
32	10YR2/1	黒	シルト	あり	ややあり	黄灰色土塊 10%、木屑片・炭化物 微量	2面	溝 3 覆土
33	2.5Y3/1	黄褐色	シルト	あり	ややあり	黄灰色土塊 20%、炭化物・木屑片 微量	2面	溝 3 覆土
34	5Y2/2	オリブ黒	シルト	あり	あり	灰オリブ色土塊 20%	2面	溝 3 覆土
35	2.5Y3/1	黄褐色	シルト	あり	ややあり	炭化物 混入	2面	溝 3 覆土
36	2.5Y3/1	黄褐色	シルト	あり	ややあり	黄灰色土塊 10%、炭化物 微量	2面	溝 3 覆土
37	2.5Y3/1	黄褐色	シルト	あり	あり	細粒砂 微量、オリブ褐色土塊・腐食植物 混入	2面	溝 3 覆土
38	5Y3/1	オリブ黒	シルト	あり	あり	炭化物 微量	2面	2面整地土
39	5Y2/2	オリブ黒	シルト	あり	あり	灰色土塊 20%	2面	2面整地土
40	10YR3/1	黒褐色	シルト	あり	ややあり	炭化物・鉄分 微量、腐食植物 混入	2面	2面整地土
41	5Y3/1	オリブ黒	シルト	あり	あり	炭化物 5%	2面	2面整地土
42	5Y2/1	黒	粘質シルト	あり	あり	灰オリブ色土塊・オリブ黒色砂粒・オリブ黒色土塊 多量	2面	2面整地土
43	5Y3/1	オリブ黒	シルト	あり	あり	灰色土塊 多量	2面	2面整地土
44	5Y3/1	オリブ黒	砂質シルト	あり	あり		地山	中層以前の堆積土
45	5Y3/1	オリブ黒	粘質シルト	あり	強	腐食植物 混入	地山	中層以前の堆積土
46	5Y2/1	黒	粘質シルト	あり	強	灰色土塊 多量	地山	中層以前の堆積土
47	5Y2/1	黒	粘質シルト	あり	強	腐食植物 微量、灰色土塊 混入	地山	中層以前の堆積土
48	5Y4/1	灰	粘質シルト	あり	強	腐食植物 多量	地山	中層以前の堆積土
2 トレンチ 3 埋戻し層								
1		黄緑	シルト	あり	ややあり	細粒砂 混入	近辺以降	表土
2	2.5Y5/3	黄緑	中粒砂	弱	弱		近辺以降	
3		黄緑	中粒砂	弱	弱		近辺以降	
4	2.5Y4/2	暗灰黄	シルト	あり	あり	細粒砂 多量	近辺以降	鉄分による変色あり
5	2.5Y5/3	黄緑	シルト	あり	ややあり	鉄分 微量	近辺以降	
6	5Y4/2	灰オリブ黒	シルト	あり	ややあり	鉄分 20%	近辺以降	
7	5Y4/1	灰	シルト	あり	ややあり	鉄分 20%	近辺以降	
8		暗灰黄	細粒砂	弱	弱		近辺以降	
9	2.5Y5/2	暗灰黄	シルト	あり	あり	鉄分 多量	近辺以降	
10	2.5Y5/2	暗灰黄	シルト	あり	あり	鉄分 多量	近辺以降	
11	2.5Y4/1	黄灰	シルト	あり	ややあり	鉄分 多量、褐色土塊 20%	近辺以降	
12	2.5Y4/2	暗灰黄	シルト	あり	ややあり	細粒砂・鉄分 多量	近辺以降	
13	2.5Y4/2	暗灰黄	砂質シルト	あり	ややあり	鉄分 混入	近辺以降	
14	10YR4/2	灰黄緑	砂質シルト	あり	ややあり	鉄分 多量	近辺以降	
15	10YR3/2	黒褐色	シルト	あり	ややあり	鉄分 多量	近辺以降	
16	2.5Y5/2	暗灰黄	細粒砂	弱	弱	鉄分 混入	近辺以降	
17	2.5Y4/2	暗灰黄	シルト	あり	ややあり	鉄分 多量	近辺以降	
18	7.5Y4/1	灰	シルト	あり	ややあり	鉄分 混入	近辺以降	
19	7.5Y3/1	オリブ黒	砂質シルト	あり	ややあり	細粒砂が横方向結状に堆積	近辺以降	
20	5Y4/1	灰	シルト	あり	ややあり	鉄分 10%、黄褐色土塊 5%	近辺以降	
21	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	あり	ややあり		近辺以降	鉄分による変色あり
22	2.5Y4/1	黄灰	砂質シルト	あり	ややあり		近辺以降	
23	2.5Y5/1	黄灰	細粒砂	弱	弱		近辺以降	
24		黄緑	細粒砂	弱	弱		近辺以降	鉄分による変色あり
25	5Y4/2	灰オリブ黒	シルト	あり	ややあり		近辺以降	
26		黄緑	中粒砂	弱	弱		近辺以降	
27		黄緑	細粒砂	弱	弱		近辺以降	

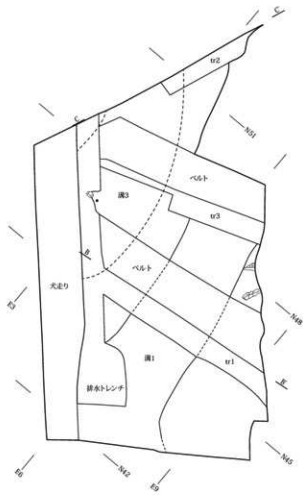
№	土色	土質	しまり	粘性	含有物	面	性状	備考
28		黄褐	中粒砂	弱				
29	5Y4/2	灰オリーブ	シルト	あり	ややあり			近世以降
30		黄灰	細粒砂	あり	弱			近世以降
31	5Y3/1	オリーブ黒	砂質シルト	あり	ややあり			近世以降
32	5Y3/1	オリーブ黒	シルト	弱	弱	細砂 混入		近世以降
33	5Y3/1	オリーブ黒	シルト	あり	あり	細砂 多量		近世以降
34	2.5Y3/1	黒褐	砂質シルト	あり	ややあり			1面 溝之覆土
35	5Y4/1	灰	シルト	あり	あり	細粒砂 多量		1面 溝之覆土
36	7.5Y3/1	オリーブ黒	砂質シルト	あり	ややあり	腐食植物・鉄分 微量		1面 溝之覆土
37	7.5Y3/1	オリーブ黒	砂質シルト	あり	ややあり	灰色細砂が横方向縞状に増積		1面 溝之覆土
38	5Y3/1	オリーブ黒	粘質シルト	あり	強			1面 溝之覆土
39	7.5Y4/1	灰	粘質シルト	あり	強	炭化物 微量		1面 溝之覆土
40	7.5Y4/1	灰	粘質シルト	あり	強			1面 溝之覆土
41	7.5Y3/1	オリーブ黒	粘質シルト	あり	あり	灰色土塊 10%		1面 溝之覆土
42	5Y3/1	オリーブ黒	シルト	あり	あり			1面 1面整地土
43	5Y3/1	オリーブ黒	シルト	あり	ややあり	灰色土塊 多量、炭化物 微量		1面 1面整地土
44	2.5Y3/1	黒褐	粘質シルト	あり	あり	φ 10 ~ 20mm 礫 微量		1面 1面整地土
45	5Y3/1	オリーブ黒	シルト	あり	あり	灰色土塊 20%、黒色土塊 微量		2面 2面整地土
46	5Y4/1	灰	粘質シルト	あり	強	炭化物 20%		2面 2面整地土
47	2.5Y3/1	黒褐	シルト	あり	あり	灰色土塊 20%		3面 土 11覆土
48	5Y4/1	灰	粘質シルト	あり	あり	腐食植物 20%、炭化物 微量		3面 土 11覆土
49	5Y4/1	灰	粘質シルト	あり	あり	腐食植物 大量		3面 土 11覆土
50	5Y4/1	灰	シルト	あり	あり	腐食植物 微量		3面 3面整地土
51	2.5Y3/1	黒褐	粘質シルト	あり	あり	炭化物が横方向縞状に増積		3面 3面整地土
52	2.5Y3/1	黒褐	粘質シルト	あり	あり	黄灰色土塊 20%		3面 3面整地土
53	7.5Y3/1	オリーブ黒	粘質シルト	あり	あり	炭化物が横方向縞状に増積		3面 3面整地土
54	5Y3/1	オリーブ黒	粘質シルト	あり	あり	腐食植物 大量		3面 3面整地土
55	7.5Y2/1	黒褐	粘質シルト	あり	強	炭化物・腐食植物 多量		中世以前の増積土
56	5Y3/1	オリーブ黒	粘質シルト	あり	強	腐食植物 多量		地山 中世以前の増積土
2トレンチ トレンチ土層								
1	5Y4/1	灰	シルト	あり	ややあり	オリーブ黒色土塊 多量、炭化物・鉄分 微量		1面 溝 2覆土
2	7.5Y2/2	オリーブ黒	シルト	あり	ややあり	炭化物 微量		1面 溝 2覆土
3	5Y3/1	オリーブ黒	シルト	あり	ややあり	炭化物 20 ~ 30%、灰色土塊 10%		1面 1面整地土
4	5Y3/1	オリーブ黒	シルト	あり	ややあり	炭化物 大量、灰色土塊 10%		1面 1面整地土
5	2.5Y3/1	黒褐	シルト	あり	あり	炭化物 微量		1面 1面整地土
6	2.5Y3/1	黒褐	シルト	あり	あり	鉄分 微量		1面 1面整地土
7	5Y2/1	黒	粘質シルト	あり	強			2面 2面整地土
8	5Y2/1	黒	粘質シルト	あり	強	灰色土塊 少量		2面 2面整地土
9	2.5Y2/1	黒	シルト	あり	あり	灰色土塊 少量		3面 土 8覆土
10	2.5Y2/1	黒	シルト	あり	あり	灰色土塊 少量		3面 土 9覆土
11	2.5Y2/1	黒	シルト	あり	あり	灰色土塊 少量		3面 土 10覆土
12	5Y4/1	灰	シルト	あり	強			3面 3面整地土
13	5Y4/1	灰	シルト	あり	強			3面 3面整地土
14	2.5Y3/1	黒褐	シルト	あり	ややあり	腐食植物 多量		3面 3面整地土
14	2.5Y3/1	黒褐	シルト	あり	ややあり	腐食植物 多量		地山 中世以前の増積土
1トレンチ 土 1								
1	10YR3/1	黒褐	シルト	弱	弱	明黄褐色土粒・黒色土粒・鉄分 微量		1面 土 1覆土
1トレンチ 土 2								
1	10YR3/1	黒褐	砂質シルト	弱	弱	細粒砂 少量、明黄褐色土粒・鉄分 微量		1面 土 2覆土
1トレンチ 土 3								
1	10YR3/1.5	黒褐	シルト	やや弱	弱	明黄褐色土粒 少量		1面 土 3覆土
2	10YR3/5/1	黄褐~細灰	シルト	やや弱	弱	明黄褐色土粒・鉄分 微量		1面 土 3覆土
2トレンチ 土 4								
1	2.5Y5/1	黄灰	粘質シルト	やや強	強	灰色土塊 少量		2面 土 4覆土
2トレンチ 土 5								
1	2.5Y3/1	黒褐	粘質シルト	あり	ややあり	炭化物 微量		3面 土 5覆土
2	2.5Y3/1	黒褐	粘質シルト	あり	あり	炭化物 多量		3面 土 5覆土
2トレンチ 土 6								
1	2.5Y2/1	黒	シルト	あり	あり	灰色土塊 20%		3面 土 6覆土
2トレンチ 土 7								
1	2.5Y2/1	黒	シルト	あり	あり	灰色土塊 20%		3面 土 7覆土

1トレンチ 1面

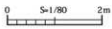
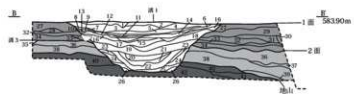
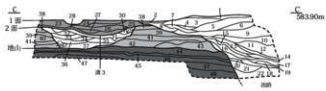
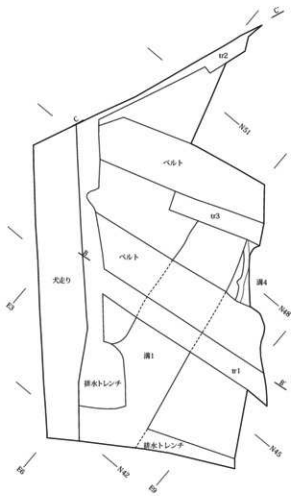


第3図 1トレンチ 1面遺構図

1トレンチ 2面



1トレンチ 地山面



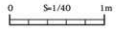
± 1



± 2

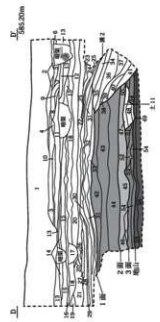
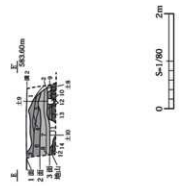
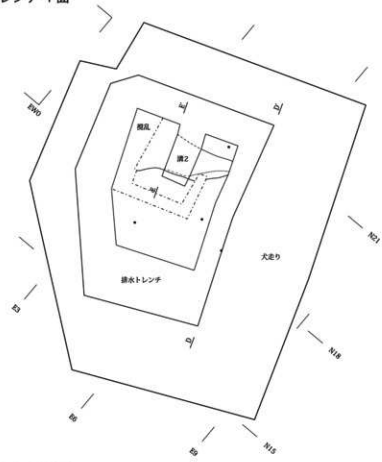


± 3

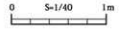
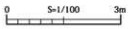
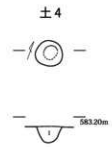
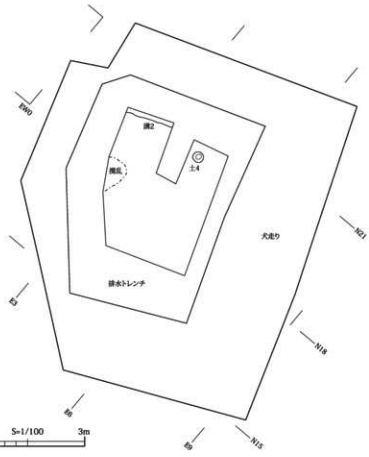


第4図 1トレンチ 2面・地山面遺構図

2トレンチ 1面

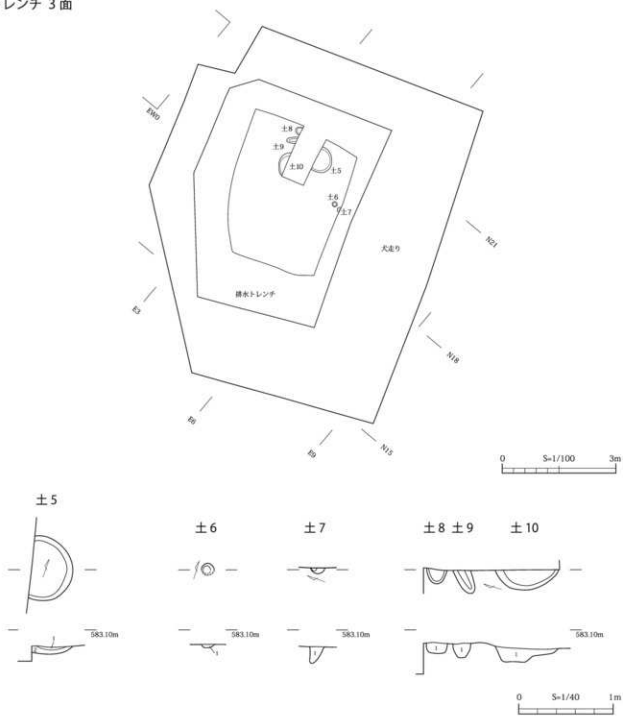


2トレンチ 2面



第5図 2トレンチ 1・2面遺構図

2 トレンチ 3 面



第6図 2 トレンチ 3 面遺構図

第3節 遺物

1 焼物（第3・4表、第7図、写真図版4）

本調査では1・2トレンチから弥生土器3点、在地系須恵器5点、土師器4点、土師質土器の皿8点、内耳鍋31点、播鉢1点（以下、土師質皿・内耳鍋・播鉢と表記）、無釉陶器1点、灰釉陶器8点、古瀬戸3点、陶器2点、青磁1点、白磁1点、計68点が見つかった。その内16点を図化した。

(1) 1トレンチ

土2（1）1は古瀬戸の折縁深皿で口縁部がわずかに残る。古瀬戸中期と推測される。

溝1（2～6）2・3はロクロ成形された土師質皿で、基本分類のうち直線的に立ち上がる皿A類に該当。胎土は細密で若干の微砂粒を含み、2群に該当する。2は口縁部内外に一部煤が付着し、灯明皿として使用されたと推測できる。4は古瀬戸の縁軸小皿で、後Ⅳ期に該当する。5は東海系無釉陶器（尾張型）の片口鉢の口縁部片である。6は内耳鍋の口縁部で、上部が外反する。市川分類のB類に該当する。外面に煤が付着している。

自然流路（7）7は灰釉陶器の広口瓶の頸部と胴部の接合部分である。二段構成で作られ、器厚は薄い。

1面整地土（8～10）8は中国産の白磁の碗か皿である。淡灰色の失透釉がかかり、底部付近は露胎。見込み部の釉が剥がれている。9は須恵器の長頸壺の底部である。高台の脇に自然釉が見られる。10は古瀬戸の四耳壺で、頸部以上が残る。淡黄灰色の釉葉がかかり、口縁部は折り返して成形した痕跡が明瞭である。

トレンチ（11～13）11・12は弥生土器の甕の胴部である。櫛状の工具による条痕文が施される。厚さや胎土から2点は同一個体とみなす。13は内耳鍋で、胴部から口縁部にかけて稜を持って外反する。C-2類に該当する。

(2) 2トレンチ

1面整地土（14・15）14は青磁の盤の破片である。胎土は灰白色を呈し、オリーブ色の釉が厚くかかる。15は内耳鍋の口縁部と胴部である。接合は不可能だが、同一個体と推測できる。B類に該当する。

2面整地土（16）16は手捏ねで成形された土師質皿である。胎土は精緻な3群で淡い橙色を呈する。内湾する器形で外面には指で押さえた跡が残る。本市で出土している土師質皿はロクロ成形による製品が大半を占め、手捏ねによるものは例外的である。井川城址の既報告調査でも手捏ね成形の土師質皿は1,255点中1点のみに留まる。

(3) 小結

いずれも小破片だが中世の焼物を主体とし、弥生時代から近世以降まで幅広い時代の焼物が確認された。出土資料の大半が1トレンチの1面で見つかり、中世の焼物は54点中30点と55.6%を占める。古瀬戸後Ⅳ期の縁軸小皿が当面溝1内から出土しており、この地点での中世の活動の中心は15世紀後半までのぼり、隣接する井川館が稼働していた時期と重なる。

参考文献

00長野県埋蔵文化財センター 1999『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書9—長野市内 その7—小滝遺跡・北の脇遺跡・前山田遺跡』

松本市教育委員会 2015『長野県松本市殿村遺跡—第5次発掘調査報告書—』

松本市教育委員会 2016『長野県松本市小笠原氏城館群—井川城址試掘—第1次・第2次発掘調査報告書—』

第3表 焼物観察表

焼物No	出土地点		器種		法量 (cm)			残存率 (%)		色調		成形・調整・形態の特徴	
	地区	面	遺構	類別	器形	口径	底径	器高	口縁	底部	釉		敷土
1	1tr	1	土2	陶器 (古瀬戸)	鉢縁深皿				わずか		灰釉・淡黄緑灰	灰白	中期
2	1tr	1	溝1	土師質土器	皿	(10.4)	(6.0)	2.8	1/6	1/3		黒	内外面わずかに覆付着、2群
3	1tr	1	溝1	土師質土器	皿				わずか			淡黒～淡灰黒	ロクロナデ、口縁部ヨコナデ、2群
4	1tr	1	溝1	陶器 (古瀬戸)	鉢縁小皿	(9.3)					灰釉・淡黄緑灰	灰白	ロクロナデ、後IV期
5	1tr	1	溝1	無釉陶器	片口鉢				わずか		淡黄緑灰		ロクロナデ、口縁部ヨコナデ
6	1tr	1	溝1	土師質土器	内耳罎				わずか			黒釉	ナデ、口縁部ヨコナデ、外面覆付着
7	1tr	1	淡路	灰釉陶器	広口瓶						灰釉・淡黄緑灰	淡灰	
8	1tr	1	惣地土	磁器 (白磁)	圓or皿						白磁・淡灰	灰白	
9	1tr	1	惣地土	須虫器	長頸壺	(8.9)				2/5		淡灰～暗灰	回転ヘラけずり、高台幅付のちロクロナデ、自然釉
10	1tr	1	惣地土	陶器 (古瀬戸)	四耳壺	(10.0)			1/6		灰釉・淡黄緑灰	灰	ロクロナデ、口縁部ヨコナデ
11	1tr	1	トレンチ	弥生土器	甕							淡黄緑灰	中期、外面一部黒染あり
12	1tr	1	トレンチ	弥生土器	甕						淡黄緑灰		11と同一個体、胴部下方、外面一部黒染あり
13	1tr	1	トレンチ	土師質土器	内耳罎	(25.4)	(21.9)		1/3	一部		黒	ナデ、口縁部ヨコナデ、底部磨目、外面全体に覆付着
14	2r	1	惣地土	磁器 (青磁)	盤						青磁・暗緑	灰白	
15	2r	1	惣地土	土師質土器	内耳罎	(32.0)	(27.0)		1/4弱	一部		黒釉	内外面焼熱外面覆付着
16	2r	2	惣地土	土師質土器	皿	(11.0)			わずか			淡黒～淡灰黒	手捏ね、3群

法量の () 内数値は還元した際の推定値を表す。

第4表 焼物の出土地点・器種別集計表

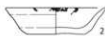
調査区	器種・器形	1 トレンチ					%	2 トレンチ					%	
		1面	2面	3面	トレンチ ほか	計		1面	2面	3面	トレンチ	計		
弥生土器	甕	1			2	3	6.8							
	杯									1	1	4.2		
在地区須虫器	長頸壺				1	3	2.3					2	8.4	
	甕	2				2	4.5			1	1	4.2		
土師器 (黒色土器含む)	杯					1	2.3	2.3		2	2	8.3	12.5	
	碗	1				1	2.3			1	1	4.2		
土師質土器	皿	1群			1	2	4.5	11.3						
		2群	2			2	4.5							
		3群										3	12.5	12.5
	大皿	1群				1	2.3	56.7					62.5	
内耳罎	1	5		3	19	43.1			8	1	3	12	50.0	
	部鉢				1	1	2.3	45.4				12	50.0	
無釉陶器	片口鉢	1				1	2.3						2.3	
	碗	2			2	4	4.5			1	1	4.2		
灰釉陶器	広口瓶	1			1	2.3								
	壺				1	1	2.3	11.4				3	8.3	
	不明	1				1	2.3			1	1	2	8.3	
無釉陶器 (古瀬戸)	鉢縁小皿	1			1	2.3								
	鉢縁深皿	1			1	3	2.3	6.9						
四耳壺	1				1	2.3								
陶器	碗			1	1	2	4.5	4.5						
青磁 (貿易陶器)	盤									1		1	4.2	
白磁 (貿易陶器)	碗か皿	1				1	2.3	2.3	1			1	4.2	
合計		29	5	1	9	44	100.0		10	2	8	4	24	100.0

1 トレンチ (1~13)

1面 土2 (1)



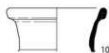
1面 溝1 (2~6)



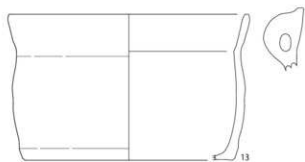
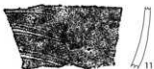
1面 流路 (7)



1面 整地土 (8~10)



トレンチ (11~13)

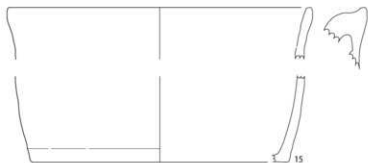


2 トレンチ (14~16)

1面 整地土 (14~15)



2面 整地土 (16)



● タール・煤炭灰化物

0 S=1/3 10cm

11・12

0 S=1/4 10cm

1~10・13~16

第7図 焼物

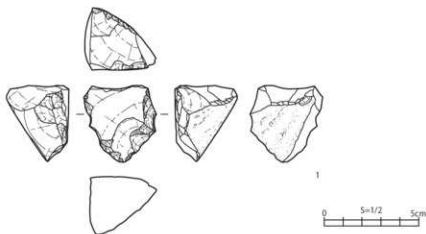
2 石器・石製品 (第5表、第8図、写真図版3)

今回の調査では、合計3点の石器・石製品が出土した。器種の内訳は、火打石1点、剥片1点、原石1点である。このうち火打石1点を図示し、概要を記す。それ以外のものは一覧表を参照されたい。石器・石製品の帰属時期は共伴する土器に準じるものとする。

1は、火打石である。チャート製の完形品で4縁辺に使用痕跡が観察される。火打石はチャート・石英等の硬質な石材を素材とし、縁辺に潰れを伴った摩耗が見られる点が特徴である。打撃部が摩耗すると、破碎して再利用する場合があるが、検出された火打石には再加工の明確な痕跡は認められない。また、今回の調査ではチャートの剥片も検出しており、遺跡内で加工作業を行った可能性があるが、剥片の縁辺に火打石特有の使用痕跡は認められない。

第5表 石器・石製品一覧表

ID	図 No.	種類	地区	面	遺構	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	破損状況	備考
1	1	火打石	1tr	1	トレンチ1	チャート	4.06	3.84	3.29	48.3	完形	
2		剥片	1tr	2	横田面	チャート	1.77	2.03	0.45	0.7	完形	
3		原石	2tr	1	造成土	石英	4.70	3.02	2.76	45.1	完形	



第8図 石器・石製品

3 自然遺物 (第6表、写真図版4)

動物遺存体は、鹿角と蛤がそれぞれ1点ある。鹿角は、先端部がない状態で、笹塔婆が納められた漆椀の近辺から出土した。蛤は、半殻のみが排土から出土した。植物遺存体は、オニクルミが2点ある。種1は、虫食いの穴を有するが、完形の状態で溝3から出土した。種2は、2トレンチの北壁から出土している。

第6表 自然遺物一覧表

ID	出土地点	同定種	部位	左右	残存状況	加工面	解体面	備考
骨1	1tr 1面 溝1 No.2	ニホンジカ	角	左	3/4程度	なし	なし	照い
貝1	排土	ハマダリ	-	-	平	不明	不明	
種1	1tr 2面 溝3 No.1	オニクルミ	-	-	ほぼ全	なし	なし	虫食いの穴あり
種2	2tr 北壁 サブトレ	オニクルミ	-	-	平	なし	なし	

参考文献

- 松井章 2006『動物考古学の手引き』奈良文化財研究所埋蔵文化財センター
 跡長野県埋蔵文化財センター 2000『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書5—長野市内 その3—松原遺跡 弥生・総論 8 総論・自然科学分析』

4 木製品（第7表、第9図、写真図版4）

今回の調査では、83点の木製品が出土し、大半が溝1に伴う。内訳は、齋串状木製品26点、齋串19点、杭4点、漆製品4点、付木3点、樹皮（桜皮）2点、笹塔婆1点、円板1点、下駄1点、指物1点、削屑1点、建築部材1点、サイカチ1点、不明品18点である。帰属時期は共伴する陶磁器に準じるものである。本報告では、遺存状態の良い遺物8点を図示し、詳細を述べる。遺物の記載にあたっては図番号を使用している。他製品については第7表を参照されたい。

(1) 齋串状木製品（1・2）

欠損によって齋串と断定できない、あるいは形状から箸の可能性が残る26点を齋串状木製品とした。

1は、板材から割り裂いて作られたものである。胴部には成形時の加工痕が多量にみられ、断面は丸に近い。両端は緩やかに尖らせるが、やや粗雑な印象を受ける。先端には工具痕と思われる、直行する浅い溝が数条残る。2は外周を削り出すことで丁寧に成形される。両端を尖らせるが、一端は1cm程度のみ加工で、木口は殆ど残らない。

(2) 齋串（3・4）

19点の齋串の大半が、扁平な楕円あるいは長方形の断面をもつ。今回出土した齋串状木製品は、あらゆる角度から削ることで先端を尖らせるが、対して齋串は側面のみ削ることで尖らせるものが大半で、平安時代以前の齋串と似た成形技法を用いる。

3は割り裂きで、両端には尖らせるための細かな加工痕が多量に認められる。胴部に丁寧な表面調整と面取りが施されることで、断面は丸みを帯びた長方形となる。4は割り裂きで、断面は不整形である。両端を緩やかに尖らせるが、一端をわずかに欠損する。

(3) 漆製品（5）

今回出土の漆製品は、椀が3点、皿が1点である。

5は横木取りで、口径18cm、器高9.6cmの大ぶりの椀である。胴部の木地は丁寧に成形されるが、高台はやや粗く、ロクロの跡が残る。高台裏は中程まで挽かれ、底部は厚みをもつ。下地処理を施した層は厚いが、対して塗漆層は非常に薄く、恐らく1層程度と思われる。内面には赤漆、外面には黒漆が塗漆される。胴部には赤漆による漆絵で「丸に鶴の丸」紋が大きく描かれ、羽などの細部は黒漆による付描きで表現される。溝1の底面から伏せた状態で出土し、椀の中には下の6の笹塔婆が納められていた。帰属時期は15世紀頃と推定される。

(4) 文字史料（6）

6は笹塔婆で、今回唯一の文字史料である。上端を鋭角の主頭状に加工し、平安時代以前によく見られる齋串の形状を呈する。木目に沿って成形され、厚さは1mmと非常に薄い。表面にのみ墨書が認められ、梵字の「キャ」「カ」「ラ」「バ」が記される。下半部を欠損するため、続く文字は確認できないが、梵字の「ア」が続くと推測できる。「キャカラバア」は仏教の五大思想を指し、上から「空」「風」「火」「水」「地」を意味する。梵字が記されている点、齋串などを伴う溝1から出土した点、5の漆椀の中に納められていたという特殊な出土状況から、祭祀に関わる利用の可能性があり、下半部の欠損は意図的に行われたとも考えられる。

(5) 門板 (7)

7 は、厚みのある門板である。側面は斜めに加工され、断面は台形を呈する。細かな表面調整の跡が残るが、一部を炭化する。桜皮を用いたつまみの一部が埋め込まれているため、蓋として使用されたと考えられる。

(6) 下駄 (8)

8 は末広の歯をもつ連歯下駄である。台部は四隅を切り落とす隅丸方形で、背面と歯の付け根には複数のノコギリ痕がみられる。鼻緒の孔は方形を呈する。表面には親指の圧痕がわずかに残ることから、右足用の下駄だと分かる。周縁と歯は使用による摩滅と欠損が目立つ。

参考文献

原田健司 2019 「長野・井川城址」『木簡研究』41 木簡学会

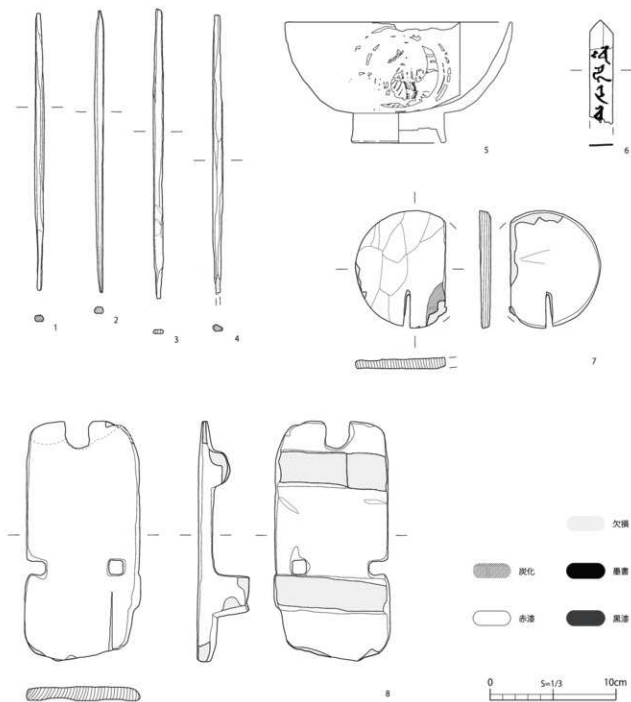
第7表 木製品観察表

調査ID	ID	地区	面	遺構	出土地点	器種	手法	長・口径 (cm)	幅/底径 (cm)	厚・高 (cm)	破損状況	備考
2	1	1r	1	溝1	No.1	逆歯下駄	角材・四方板	(19.3)	(9.2)	(4.2)	1/5 欠	両面共に著しく摩耗。末広の歯、方形の鼻緒孔
	2	1r	1	溝1	-	漆甲	榿材(削り出し)	21.5	0.9	0.5	完形	片端折れ、両端削り
	3	1r	1	溝1	-	不明	不明	(8.0)	(9.6)	0.3	不明	
	4	1r	1	溝1	-	櫨皮	不明	(4.1)	1.5	1.0	不明	桜皮
	5	1r	1	溝1	tr3 ベルト	不明	丸太材	(28.0)	(8.9)	(5.4)	不明	一部加工痕
	6	1r	1	溝1	tr3 ベルト	漆甲状木製品	榿材(削り出し)	(10.6)	(9.6)	(9.4)	1/2 欠	一端欠損、面取り、一端削り
	7	1r	1	溝1	tr3 ベルト	漆甲	榿材(削り出し)	(8.3)	(9.9)	(9.3)	2/3 欠	両端欠損、折れ、面取り
	8	1r	1	溝1	tr3 ベルト	不明	枝	(3.8)	(9.9)	-	不明	工具痕
	9	1r	1	溝1	tr3 ベルト	サイカチ	枝	5.2	0.4	-	不明	
	10	1r	1	溝1	-	不明	角材	(7.6)	(3.9)	1.6	不明	表面炭化
	11	1r	1	溝1	-	不明	板材・板目	(8.0)	9.0	0.7	不明	ケガキ線5条、一部炭化、曲物か
	12	1r	1	溝1	-	漆甲状木製品	榿材(削り出し)	22.0	0.5	0.4	不明	面取り
	13	1r	1	溝1	-	漆甲	榿材(削り出し)	(6.5)	(9.7)	(9.4)	不明	両端折れ、面取り
	14	1r	1	溝1	-	漆甲状木製品	榿材(削り出し)	(5.9)	(9.7)	(9.5)	不明	両端折れ、面取り
	15	1r	1	溝1	-	漆甲状木製品	榿材(削り出し)	(7.3)	(9.7)	(9.3)	不明	両端折れ、面取り
3	16	1r	1	溝1	-	漆甲	板材(削り製き)	23.1	0.9	0.3	完形	面取り、両端削り
	17	1r	1	溝1	-	漆甲	榿材(削り出し)	(23.0)	(1.9)	(9.4)	ほぼ完形	片端折れ、両端削り、面取り
	18	1r	1	溝1	-	漆甲状木製品	榿材(削り出し)	(10.3)	(9.5)	(9.5)	不明	一端欠損、折れ、面取り
	19	1r	1	溝1	-	漆物	板材・板目	(9.0)	(2.0)	(1.3)	不明	両端欠損、一部炭化
5	20	1r	1	溝1	No.3	漆桶	横木取り	18.0	(3.9)	9.6	1/2 欠	下地処理、内面赤漆塗、外面黒漆塗に赤漆・黒漆で漆粒(丸に髑の丸紋)、鉄分付着、中にNo.6の髑髏が納められる
	21	1r	1	溝1	No.4	漆桶	横木取り	(3.3)	(5.0)	(9.4)	不明	下地処理、内外面赤漆塗、3片接合
7	22	1r	1	溝1	No.5	門板	板材・板目	-	(4.6)	(9.9)	1/3 欠	側面を斜めに加工、つまみわずかに残存、蓋か
	23	1r	1	溝1	No.6	不明	丸太材	(44.4)	(8.3)	(4.5)	不明	炭化
24	1r	1	溝1	No.7	建築部材	板材・板目	88.9	9.0	1.7	完形	φ8mmの穿孔。片面に加工痕	
	1r	1	溝1	-	不明	不明	(15.6)	(1.4)	(9.1)	不明		
	1r	1	溝1	-	髑髏	板材・板目	(8.2)	(1.9)	(9.1)	不明	3片接合、上端を半圓状に加工、表面に髑髏の頭蓋、下部欠損、No.5の漆桶の内側から出土	
6	26	1r	1	溝1	-	櫨皮	不明	(5.4)	(2.1)	(2.0)	不明	桜皮
	27	1r	1	溝1	-	不明	角材・二方板	(18.5)	(1.9)	-	不明	一端削り
	28	1r	1	溝1	-	不明	角材・二方板	(18.5)	(1.9)	-	不明	一端削り
	29	1r	1	溝1	-	不明	板材・板目	(8.5)	(1.5)	(9.4)	不明	一端折れ、側面に方角痕
	30	1r	1	溝1	-	不明	板材・板目	(14.0)	(1.2)	(9.7)	不明	一端欠損、一端に加工痕、面取り
	30	1r	1	溝1	-	不明	不明	-	-	-	不明	

図号	ID	地区	面	道幅	出土地点	部種	手法	長・口径 (cm)	幅/底径 (cm)	厚・高 (cm)	破損状況	備考
	31	1r	1	溝1	-	漆串	棒材(削り出し)	(12.0)	(0.9)	(0.3)	1/2欠	一端欠損、面取り、一端削り
	32	1r	1	溝1	-	漆串状木製品	棒材(削り出し)	24.3	0.6	0.4	完形	面取り、両端削り
4	33	1r	1	溝1	-	漆串	板材(削り製さ)	22.1	(0.8)	(0.5)	ほぼ完形	面取り、両端削り
1	34	1r	1	溝1	-	漆串状木製品	板材(削り製さ)	22.0	(0.8)	(0.5)	ほぼ完形	面取り、両端削り、先端に工具痕数条
	35	1r	1	溝1	-	漆串	棒材(削り出し)	(11.3)	(1.0)	(0.3)	1/2欠	一端折れ、面取り、一端削り
	36	1r	1	溝1	-	漆串	棒材(削り出し)	(11.9)	(0.9)	(0.3)	1/2欠	一端折れ、面取り、一端削り
	37	1r	1	溝1	-	漆串	棒材(削り出し)	(12.9)	(0.8)	(0.4)	1/2欠	一端折れ、面取り、一端削り
	38	1r	1	溝1	-	漆串	棒材(削り出し)	(15.8)	(0.7)	(0.3)	1/2欠	2片接合、一端欠損、面取り、一端削り
	39	1r	1	溝1	-	漆串	棒材(削り出し)	(10.9)	(0.8)	(0.6)	1/3欠	一端欠損、一部炭化、面取り、一端削り
	40	1r	1	溝1	-	漆串	棒材(削り出し)	(10.3)	(0.8)	(0.4)	1/3欠	一端欠損、面取り、一端削り
	41	1r	1	溝1	-	漆串	棒材(削り出し)	(7.3)	(0.7)	(0.3)	1/4欠	一端欠損、面取り、一端削り
	42	1r	1	溝1	-	漆串状木製品	棒材(削り出し)	21.0	(0.6)	(0.4)	ほぼ完形	片端削り、片端平坦、折れ、面取り、一端削り
2	43	1r	1	溝1	-	漆串状木製品	棒材(削り出し)	22.4	(0.6)	(0.5)	ほぼ完形	面取り、両端削り
	44	1r	1	溝1	-	漆串状木製品	棒材(削り出し)	20.5	0.5	0.4	完形	折れ、面取り、一端削り
	45	1r	1	溝1	-	漆串状木製品	棒材(削り出し)	21.8	0.6	0.4	完形	2片接合、面取り、両端削り
	46	1r	1	溝1	-	漆串状木製品	棒材(削り出し)	20.8	(0.5)	(0.5)	完形	2片接合、折れ、一端平坦、一端削り、面取り
	47	1r	1	溝1	-	漆串状木製品	棒材(削り出し)	(14.0)	(0.5)	(0.3)	1/2欠	一端欠損、面取り、一端削り
	48	1r	1	溝1	-	漆串状木製品	棒材(削り出し)	(16.3)	(0.4)	(0.6)	1/2欠	一端欠損、面取り、一端削り
	49	1r	1	溝1	-	漆串状木製品	棒材(削り出し)	(11.2)	(0.5)	(0.5)	1/2欠	一端欠損、面取り、一端削り
	50	1r	1	溝1	-	漆串状木製品	棒材(削り出し)	(12.8)	(0.6)	(0.6)	1/2欠	一端欠損、一端炭化、一端削り
	51	1r	1	溝1	-	漆串状木製品	棒材(削り出し)	(11.9)	(0.7)	(0.6)	1/2欠	一端欠損、一端削り
	52	1r	1	溝1	-	漆串状木製品	棒材(削り出し)	(8.9)	(0.6)	(0.4)	1/3欠	一端欠損、一端切断
	53	1r	1	溝1	-	漆串状木製品	棒材(削り出し)	10.1	0.6	0.5	完形	両端切断
	54	1r	1	溝1	-	漆串状木製品	棒材(削り出し)	(9.5)	(0.7)	(0.5)	1/3欠	両端欠損
	55	1r	1	溝1	-	漆串状木製品	棒材(削り出し)	(8.4)	(0.6)	(0.5)	1/3欠	一端欠損、面取り、一端削り
	56	1r	1	溝1	-	漆串	棒材(削り出し)	(6.8)	(0.8)	(0.6)	1/3欠	一端欠損、面取り、一端削り
	57	1r	1	溝1	-	漆串状木製品	棒材(削り出し)	(6.6)	(0.6)	(0.6)	1/4欠	一端欠損、面取り、一端削り
	58	1r	1	溝1	-	漆串	棒材(削り出し)	(6.2)	(0.6)	(0.3)	1/4欠	一端欠損、面取り、一端削り
	59	1r	1	溝1	-	不明	棧	(5.0)	(0.5)	-	不明	2片接合、一部削り
	60	1r	1	溝1	-	不明	丸太材・平縄	(12.5)	(4.7)	(2.5)	不明	表面炭化
	61	1r	1	溝1	-	漆串	棒材(削り出し)	(22.2)	(0.8)	(0.4)	ほぼ完形	一端欠損、両端削り
	62	1r	1	溝1	-	不明	板材・板目	(19.8)	(2.1)	(0.7)	不明	
	63	1r	-	tr1	-	付木	板材・板目	(19.7)	(0.9)	(1.1)	ほぼ完形	折れ、一端炭化、面取り
	64	1r	-	tr1	-	漆串状木製品	棒材(削り出し)	(10.2)	(0.7)	(0.4)	ほぼ完形	一端欠損、面取り、両端削り
	65	1r	-	東壁tr	-	付木	角材・板目	6.1	0.6	0.6	完形	両端切断、両端炭化
	66	1r	-	東壁tr	下層	漆串状木製品	棒材(削り出し)	(12.8)	(0.7)	(0.5)	1/3欠	一端欠損、面取り
	67	1r	-	東壁tr	下層	杭	丸太材・芯持ち	(16.5)	-	(4.4)	不明	一端欠損、一端に朽物痕、折れ
	68	1r	-	東壁tr	下層	杭	丸太材・芯持ち	(8.7)	-	(3.8)	不明	両端折れ、ID69と同一個体か
	69	1r	-	東壁tr	下層	杭	丸太材・芯持ち	(10.0)	-	(4.0)	不明	加工痕、両端折れ、ID68と同一個体か
	70	1r	1	造成土	-	不明	板材・板目	(8.5)	(2.1)	0.2	不明	φ1mmの穿孔2カ所、一部炭化、糸で纏ったか
	71	1r	1	造成土	-	不明	丸太材・芯持ち	28.5	3.2	2.5	完形	4片接合、φ4mm・深さ7mmの穴2カ所
	72	1r	1	造成土	-	漆串	棒材(削り出し)	(16.2)	0.7	0.5	完形	一端小口切り痕とし、一端削り
	73	1r	1	造成土	-	削屑	不明	(15.1)	(1.3)	(0.5)	不明	両端小口料めに切り痕とし
	74	1r	1	検出面	-	漆桶	桶木取り	(2.0)	(1.6)	(0.5)	不明	下地処理、内外面黒漆による下塗りの上に赤漆で上塗り
	75	1r	2	溝3	-	漆串状木製品	棒材(削り出し)	(6.2)	(0.7)	(0.5)	不明	一端欠損、面取り、一端削り
	76	1r	-	西壁tr	-	不明	板材・板目	(15.6)	(5.3)	(1.1)	不明	3片接合、畚分付着
	77	1r	-	-	-	不明	板材・板目	(21.5)	(5.2)	(1.5)	不明	2片接合、畚分付着
	78	1r	-	-	-	漆串状木製品	棒材(削り出し)	(9.0)	(0.7)	(0.6)	不明	2片接合、一端欠損、面取り、一端削り、畚分付着

図号	ID	地区	面	遺構	出土地点	器種	手法	長・口径 (cm)	幅/底径 (cm)	厚・高 (cm)	破損状況	備考
	79	1r	-	-	-	漆串	板材(削り製成)	(5.8)	(1.0)	(0.4)	不明	両端欠損、面取り
	80	2r	1	溝2	No.1	漆皿	横木取り	不明	6.0	(1.1)	4.5欠	下地処理、内外面赤塗律、高台裏黒漆塗
	81	2r	1	-	No.3	杭	角材・二方板	(54.0)	(9.7)	(6.0)	不明	半円形、内側欠損
	82	2r	3	造成土	-	付木	榿材(削り出し)	(8.8)	(0.8)	(0.7)	不明	一端欠損、蒼右、一端炭化
	83	2r	地	横出面	No.1	不明	角材	(24.5)	(10.6)	(10.0)	不明	

計測値の()内数値は残存部を表す。
サイカチは特殊な遺物のため、木製品として扱った。



第9図 木製品

第IV章 総括

今回の調査は、遺跡の範囲・内容確認が目的であった第1・2次調査に対して、記録保存を目的とした緊急発掘調査であった。そのため、全ての検出面について遺構などの様子を平面的に捉えることができた。以下に概略を列記し、調査のまとめとしたい。

- ① 今回の調査地は本遺跡の北側、第1・2次調査で北郭外整地面の北部とした箇所である。調査では、第1・2次調査と同様に整地盛土が確認され、土壇状盛土遺構を囲む堀状遺構の外側に広がる整地や遺構の分布の様子を窺うことができた。
- ② 遺構は土坑11基、溝状遺構4条、自然流路1条が確認されているが、第2次調査1～3トレンチの結果と同様に、北郭外整地面の南部と比較して密度は低い。
- ③ 土坑は11基が検出できたものの、建物址などを構成する配列は見受けられず、今回の調査から北郭外整地面の施設の様相を捉えることはできなかった。
- ④ 出土した遺物は少量で、多くが小破片のため、各検出面の時期の検討は困難である。しかし、1トレンチ1面で検出した溝1は比較的遺物が得られたことから、15世紀後半までのぼる時期と推定される。これは井川館が稼働していた時期と重なる。
- ⑤ 溝1の底部付近からは伏せた状態の漆碗が出土した。中からは笹塔婆が出土しており、意図的に納められたものと推測される。また、周辺からは齋串、鹿角などが出土している。このように、祭祀に関わる遺物や出土状況が見受けられたことから、溝1では何らかの祭祀が行われた可能性が考えられる。
- ⑥ 溝1からはサイカチの枝が1点出土している。サイカチは第1・2次調査で株が確認されたことや土壌中の花粉分析で花粉が検出されたことから、居館の法面に密に植栽されていた可能性が高いことが判明した植物である。今回は覆土中から1点出土したのみのため、この溝にサイカチが植栽されていた根拠にはならないが、北郭外の様子を知る手掛かりを得ることができた。
- ⑦ 1トレンチ1面では、溝1に直交するように自然流路が検出された。自然流路の覆土は調査地の東を流れる田川水系とみられる。人為的な遺構でないことを踏まえて検討すると、自然流路の南までが井川城址の造成地であり、この地点が造成地の端部にあたる可能性が考えられる。

最後に、本調査に際し多大なるご協力とご理解をいただいた関係機関、井川城下区町会をはじめとする地元の方々、そして調査スタッフに感謝の意を表して本書の締めくくりとしたい。





1 トレンチ 1 面 完掘状況 (南東から)



1 トレンチ 1 面 溝 1 完掘状況 (南から)



1トレンチ 1面溝1 土層断面 (南から)



1トレンチ 1面溝1 鹿角 (骨1) 出土状況 (東から)



1トレンチ 1面溝1 下駄 (木8) 出土状況 (南西から)



1トレンチ 1面 自然流路土層断面 (東から)



1トレンチ 地山面 完掘状況 (上が北西)



1トレンチ 2面 溝3 土層断面 (東から)



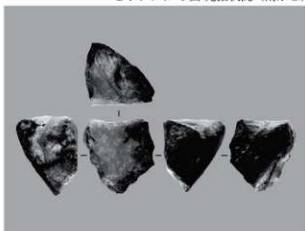
2トレンチ 1面 溝2 土層断面 (東から)



2トレンチ 1面 完掘状況 (南から)



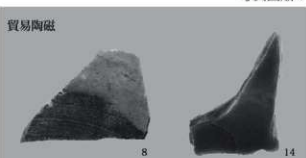
2トレンチ 1面 溝2 完掘状況 (東から)



石製品 火打石 (1) S=1/2



土師質土器 皿 (2)



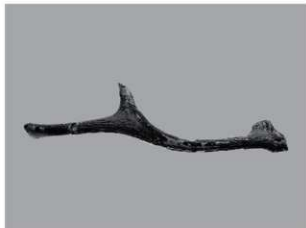
貿易陶磁

土師質土器 皿

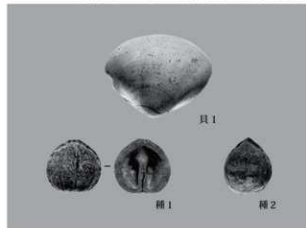


国産陶器

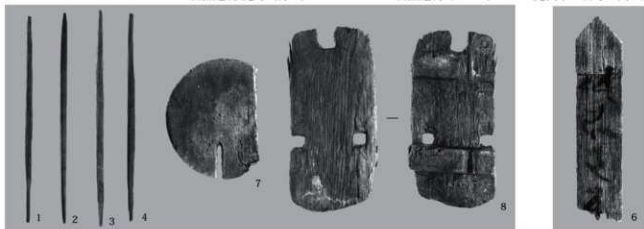
植物 (S=1/1、Noは実測図中の番号に同じ)



自然遺物 鹿角 (骨1)



自然遺物 (S=1/2、Noは一覧表中の番号に同じ)



木製品 (1~4・8 : S=1/4、7 : S=1/3、6 : S=1/2、Noは実測図中の番号に同じ)

報告書抄録

ふりがな	ながのけんまつもとし いがわじょうし だい3じはくつちようさきょうこくしよ								
書名	長野県松本市 井川城址 第3次発掘調査報告書								
副書名									
巻次									
シリーズ名	松本市文化財調査報告								
シリーズ番号	No.241								
編著者名	伊藤誠之介・大西理美・小山奈津実・原田健司・廣田早和子・壬生量子								
編集機関	松本市教育委員会								
所在地	〒390-8620 松本市丸の内3番7号 TEL.0263-34-3000(代) (記録・資料保管：松本市立考古博物館 松本市中山3738番地1 TEL.0263-86-4710)								
発行年月日	2021(令和3)年3月31日(令和2年度)								
ふりがな	ふりがな	コード							
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
井川城址	長野県松本市 井川城1丁目	20202	172	36度13分 26秒	137度57分 52秒	2016年5月9日 ～ 2016年7月8日	約 366㎡	松本市中条保育園 (現・井川城保育園) 移転改築事業	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物			特記事項	
井川城址	城館跡	中世	土坑：11基 溝状遺構：4条 自然流路：1条		焼物：弥生土器、在地系須恵器、土師器、土師質土器、無釉陶器、灰軸陶器、古瀬戸、陶器、青磁、白磁 石器・石製品：火打石ほか 自然遺物：鹿角ほか 木製品：漆串状木製品、漆串、漆製品、付木、笹塔婆、下駄ほか				
要約	<ul style="list-style-type: none"> ・信濃守護小笠原氏の居館跡と伝わる井川城址について、松本市中条保育園(現・井川城保育園)移転改築事業に伴う緊急発掘調査を実施した。調査地は本遺跡の北側、第1・2次調査で北郭外整地面の北部とした箇所である。 ・調査では15世紀後半までのぼる時期と推定される溝状遺構が確認された。溝状遺構の底部付近からは伏せた状態の漆椀、笹塔婆、漆串、鹿角など、祭祀に関わる遺物や出土状況が見受けられたことから、この溝状遺構では何らかの祭祀が行われた可能性が考えられる。また、調査地の北側で自然流路が確認されたことから、調査地が井川城址の造成地の端部にあたる可能性が考えられる。今回の調査により、井川城址の様相を考えるうえで重要な資料が得られた。 								



表紙 1 トレンチ1面溝1 漆椀(木5)出土状況東から
裏表紙 溝1から出土した笹塔婆(木6)

松本市文化財調査報告 No.241
長野県松本市
井川城址
—第3次発掘調査報告書—

発行日 令和3年3月31日
発行者 松本市教育委員会
〒390-8620
長野県松本市丸の内3番7号
印刷 アサカワ印刷株式会社